

大学が消える街

箱崎は今

◆ 8

紙片に学生二百人ほどの名前と住所がびっしり書き込まれている。「下宿帳ですよ。戦前、警察官が思想調査に訪ねてくるので、うちにした下宿生の連絡先を記録したのが始まりです」。

池田善朗さん(七四)福岡市東区美和台

は振り返る。

九州大学箱崎キャンパス

の近くにあった池田さんの

実家は、一九二一年の九大

開校とともに、木造二階建

ての一部で間貸しを始め

た。池田さんは黒ずんだ分

厚い下宿帳を大学に寄贈

し、コピーを大切に保管し

ている。

下宿を切り盛りしたの

は、池田さんの亡母ツチエ

さん。食欲旺盛な若者の朝

夕食を賄い、昼は弁当を持

家族同然に暮らした

たせた。食料難の時代は食

材の買い付けに奔走した。

「母はご飯をいっぱい食べ

る学生が好きでした」。池

田さんはわが家が下宿生で

にぎやかだった少年時代を

鮮明に記憶している。

◇ ◇

「家族同然だった。お世

話になったなあ」。六二年

から七年間、池田さん宅に家主の一家と同居し、隣の

下宿した九大名誉教授の内

野健一さん(六六)は感慨深げ

に若き日を思い起こした。

食事はツチエさんの家族と

一緒。生活費に困り、お金

を借りたこともあった。休

日には下宿仲間と一緒に、

映画館に繰り出した。

下宿していた当時、還暦

を迎えたツチエさんのため

学生の好みも、安全性や

快適さを売り物にする鉄筋

マンションに移って久し

い。昨年の学生生活実態調

査(九大生協)によると、

か0・8%だった。

か0・8%だった。

か0・8%だった。

か0・8%だった。

か0・8%だった。

か0・8%だった。

か0・8%だった。

か0・8%だった。

か0・8%だった。

か0・8%だった。

か0・8%だった。

か0・8%だった。

か0・8%だった。

か0・8%だった。

か0・8%だった。

か0・8%だった。

か0・8%だった。

か0・8%だった。

か0・8%だった。

か0・8%だった。



九州大学周辺の下宿は激減し、箱崎キャンパス小松門(右奥)前の通りにもマンションが並ぶ